

D01

多数歯齲蝕を有した小児の口腔管理の1例

水町純子

(板家小児歯科医院)

【目的】

多数歯齲蝕を有する小児の口腔管理においては適切な生活習慣の確立が重要である。そこで患児の日常生活の状況を把握し問題点の抽出を行い生活習慣の改善を目的に管理指導を行った。なお、本報告に対する患者および保護者の承諾は得ている。

【症例】

初診日：平成28年4月13日

初診時年齢：2歳6ヶ月

性別：男児

主訴：虫歯の治療をしてほしい。

現病歴：1歳6ヶ月健診は受診していない。ほぼ全歯にわたり齲蝕を認める。今回が初めての歯科受診である。その他特記事項はない。

家族構成：父、母、姉(6歳)の4人家族

【経過と指導内容】

初診時の口腔内診査では、齲蝕が多数歯に認められた。口腔清掃不良で母親の意識は低かった。日常生活の問題点としては、患児はジュースを好み、冷蔵庫の中には、常備されており、患児が欲しがるだけ与えていた。治療後の指導では飲み物は、お茶、お水、牛乳等に変更し齲蝕リスクの軽減をはかり、フッ化物の利用および口腔清掃の習慣化を指示した。

口腔内への関心が低かった母親も患児の口腔内の改善とともに、刷掃の必要性を理解し、協力を得られるようになってきた。家庭での口腔清掃も継続されている。

齲蝕治療終了後は口腔清掃指導とフッ化物塗布を定期的に行っている。この様な定期指導により現在も良好な状態を維持している。現在では、本人にも刷掃指導を行い、二次齲蝕の予防に努めている。

【考察】

継続的な管理指導により飲食等の生活習慣を見直す事が出来た。母親の予防に関する意識が徐々に向上してきた。今後とも継続してより良い生活習慣を維持していこうと思う。

利益相反はない